

## AV情報スクランブル

Audio Visual Information

3月 Scramble

## 主要記事

NIME教材「学校教育とカウンセリング」プロジェクトの公開研究会  
 全国学校支援ボランティアサミット in 木更津2001  
 「エデュテイメントフォーラム2001京都」開催  
 「第39回日本産業映画・ビデオコンクール」開催  
 「第12回（平成12年度）松下視聴覚教育研究賞」決まる

## 研究会情報

NIME教材「学校教育とカウンセリング」プロジェクトの公開研究会

メディア教育開発センター（略称NIME、文部科学省大学共同利用機関）では、平成九年度より、教師のカウンセリング学習を支援するメディア教材の開発プロジェクトを行っている。これまで、カウンセリングの基礎を学ぶ教材（ビデオ三巻、DVD一巻）を開発したが、平成二二年度（最終年度）は、カウンセリングを教師の教育実践（学習指導、進路指導、学級経営）に生かす方法を学ぶ教材（ビデオ三巻）を開発した。

このたび、本プロジェクトの総括、ならびに、プロジェクト主査、福井康雄教授の退官を記念し、下記の予定で公開研究会を開催する。

1・日時

三月一九日（月）一四：〇〇～一七：〇〇

2・会場

国立学校財務センター 学術総合センター二階 一橋記念講堂

（千代田区二ツ橋二 一 二）

3・プログラム

一四：〇〇ご挨拶／一四：〇五  
 福井康雄教授退官記念講演「高等教育支援と教材開発」／一四：三〇ビデオ教材上映「学級集団づくりでのカウンセリング」／一五：三〇休憩／一五：四〇特別講演

「これからの教師教育とカウンセリング」 國分康孝氏（東京成徳大学教授・日本教育カウンセラー協会会長）／一六：一〇特別講演  
 「映像を読む力」 登川直樹氏（映画評論家・日本映像学会常任理事）／一六：四〇総括討論

4・参加費

無料。なお、研究会終了後に、懇親会（会費制）を予定。

5・参加申込み先

〒二六 〇〇一四 千葉市美浜区若葉二 一 二 メディア教育開発センター メディア教材研究開発部門事務室 電話〇四三 二九八 三四二三 電子メール：  
 minn-office@nime.ac.jp URL：  
<http://www.nime.ac.jp/minn/index.html>

全国学校支援ボランティアサミット in 木更津二〇〇一

「研究報告 57学校を変える『総合的な学習』 実践校の歩みから学ぶ」(財)中央教育研究所編、二〇〇〇年一月刊、一一二頁、B五判、一〇〇〇円(税別)

「総合的な学習を行ってきたことで、教科学習がはじめて本物になってきた」といった実践校での評価に、手応えを感じているという。

本研究報告書は、(財)中央教育研究所の高桑康雄、坂本明、寺崎昌男、日臺利夫の四氏が「総合的な学習の時間」の創設から展開について、平成九年から現在に至るまで実際に指導、助言を行ってこられた全国の小学校八校、中学校七校の実態について座談会形式で一三の視点から解説した構成となっている。「総合的な学習の時間」のイメージが膨らんでいく。

四氏は要論を語る。「校長も喜びを共に共感できるような教育実践でなければ総合的な学習とはならない」「総合的な学習の第一歩は待つことである」「テーマを大きく、その中で子どもが小テーマを設定すると取り組みやすい」と。



続けて、人間が知的な生産をしていくためには、所定の体系の中で目標を設定し、内容・方法を考える側面(モード)と、現に存在する問題を解決していくために多様な専門を組み合わせるという側面(モード)といった両面が必要である、と論及することで、教科の指導ではモードが、総合的な学習の時間ではモードが重視されるのかもしれない、と「知の総合化」を取り上げていく。

とかく話題となる「基礎・基本」について考える上でのヒントが得られる。

既に実践しているが腑に落ちないものがある、不安がある、といった管理職、主任層にとっては必読に値する研究報告書である。

(吉澤 良保)

全国学校支援ボランティア・サミットin木更津二〇〇一実行委員会主催による標記サミットは、「開かれた学校の実現に向け、求められる学校支援ボランティア活動の在り方を探る」をテーマに下記の要領で開催される。

- 1. 期日 八月二五日(土)・二六日(日)
- 2. 会場 千葉県木更津市・かずさアカデミアホール
- 3. 参加費 一、〇〇〇円
- 4. 日程

第一日目 一三:三〇開会セレモニーノ一四:二〇記念講演&トークセッションノ一六:〇〇ポスターセッションノ一六:三〇実践報告ノ一八:〇〇木更津市長歓迎レセプション

第二日目 九:〇〇パネルディスカッションノ一:〇〇閉会セレモニーノ一:四〇海ほたる等への見学ツアー

5. 主な内容  
記念講演&トークセッション  
「学校支援ボランティアへの期待」(仮題)、講師:興相寛氏(東京都・世田谷ボランティア協会副理

専長)、ゲスト:明石要一氏(千葉大学教授)、ホスト:西村堯氏(木更津市教育長)  
ポスターセッション(木更津市内三一小・中学校による実践発表)

パネルディスカッション「いま、学校支援ボランティアにできること」(仮題)  
6. 問い合わせ 木更津市教育委員会教育部学校教育課(多田元樹、古泉忠之)  
〒二九二 八五〇一 千葉県木更津市潮見一 電話〇四三八二二三 七一一一(内線五九三)  
<http://www.kisarazu.ed.jp/sunit/>

「エデュテイメントフォーラム 2001京都」開催  
エデュテイメントフォーラム2001京都実行委員会主催による標記フォーラムは、エデュテイメント産業の事業化支援を目的として、コンテンツの一般展示、コンテスト、親子で楽しむ講座などからなる内容により開催する。

1. 日時 三月二九日(木)~三〇日(金)  
2. 会場 京都リサーチパーク

「紙芝居 街角のメディア」山本武利著、吉川弘文館、二〇〇〇年一〇月刊、B六判、一六九頁、一七〇〇円（税別）

映画でさえも、ややもすると忘れられがちな今日の状況の中で、ましてや紙しばいの存在はほんとうに影が薄いものに思われがちである。しかし、文部科学省に改組された「教育映画等審査」の仕事にも、紙しばいが依然残されている。

しかし、長いこと新聞を中心としてマスメディアの歴史の研究を続けて来た著者の鋭い視線は、この忘れられがちなメディアの存在と意義の考察に向けられていた。その成果が本書である。

その構成は、「戦前・戦時の街頭紙芝居」から戦争プロパガンダとしての「印刷紙芝居」の誕生、戦後の娯楽としての「街頭紙芝居」の人気ぶり、教育用、さらには「印刷紙芝居」による左翼プロパガンダの活発化、「紙芝居」への規制の強化、テレビの出現による凋落へとたどる。

著者が紙しばいに着目したきっかけは、第二次世界大戦後、占領軍



がメディアの検閲を実施するに当たって、紙しばいというメディアの存在に気づいたことを「発見」したことであった、といわれる。

そこから著者のメディア史研究者としての、じつに広範で、しかも丹念な調査・分析の作業が始められる。紙しばいが日本にしか見出されなかったことから占領軍でもこれを「カミシハイ」とローマ字表記になつたことを紹介しつつ、そこに紙しばいの芸術的、メディア的な独自性を見ており、しかもそれが日本のきわめて重大な歴史上の転換期において、どのような社会的な役割りを果たしたかを考慮している。

著者はアメリカ国立公文書館所蔵の日本占領期関係資料（それが著者の研究の端緒）をも丹念に分析しており、必見の図書である。

（高桑 康雄）

ブックレビュー

3・内容

コンテスト作品＝エデュテイメント市場の育成及びコンテンツの質を高めるため、国内外から広く作品を募集し、優秀作品に対し賞を贈呈。

出展企画＝メーカー、コンポーター、ユーザーの出会いの場を創出。

親子で楽しむエデュテイメント講座＝親子でエデュテイメントを体験できる講座を開く。

4・問い合わせ  
エデュテイメントフォーラム2001  
京都実行委員会事務局  
電話 〇七五 三一五 九一九〇  
<http://www.kyoto-one.ad.jp/entertainment/>

コンクール情報

「第三九回日本産業映画・ビデオコンクール」開催

（社）日本産業映画協議会では、すぐれた産業映画・ビデオを選奨し、その質を高め、普及をはかるとともに、日本の文化の向上と産業の振興に寄与する「ことを目的に標記コンクールを次の要領で開催する。

1・出品規定

平成一二年四月一日から平成一三年三月三十一日までに製作を完了する産業映画・ビデオであること。

出品者は全部門を通じ、映画・ビデオを含めて二作品以内を自選し、出品することができる。

この他審査委員会の推薦する作品も参加できる。

出品は一六ミリフィルムまたはビデオで、日本語版とする。

上映時間は五分以上六〇分以内とし、テレビ放映を主目的とするものは参加できない。

2・参加部門

- (イ) 企業紹介部門、(ロ) 技術記録部門、(ハ) 販売促進部門、(ニ) 教育訓練部門、(ホ) 学術・研究部門、(ヘ) 広報部門、(ト) 観光部門、(チ) 教養部門

3・申し込み締め切り  
三月三十一日（土）

4・表彰式  
六月二日（火）如水会館

5・問い合わせ・申し込み  
〒一〇〇 八〇五一 東京都千代田区一ツ橋一 一 毎日新聞社内（社）日本産業映画協議

会